

経営比較分析表（令和2年度決算）

和歌山県 九度山町

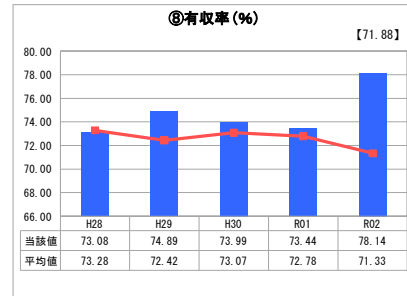
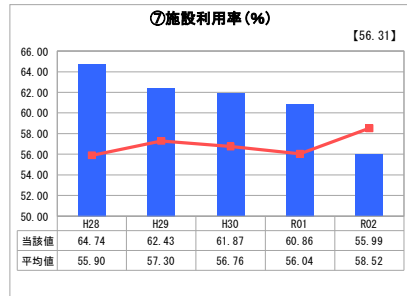
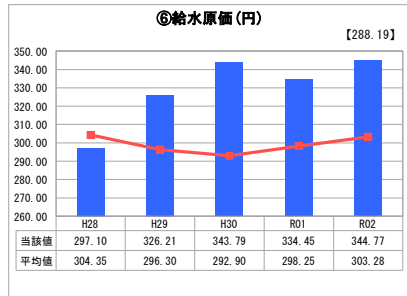
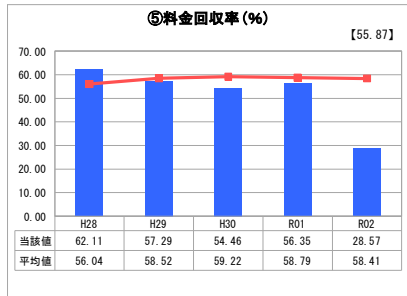
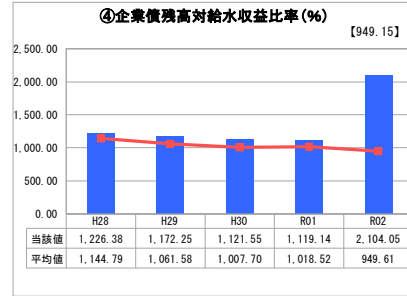
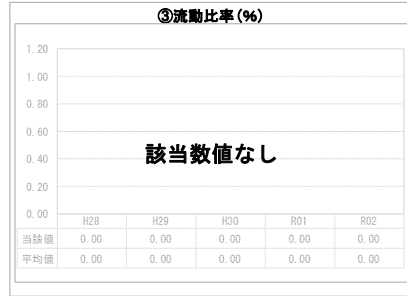
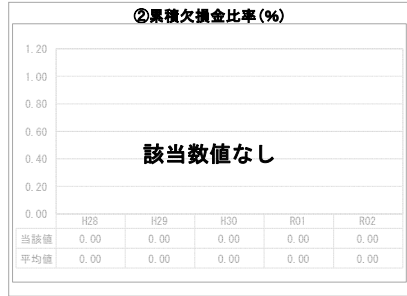
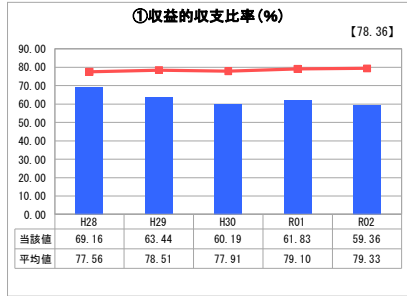
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	96.36	3,200	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,076	44.15	92.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,897	19.15	203.50

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

九度山町簡易水道事業は、施設利用率⑦は全国平均並ではあるものの、収益的収支比率①が類似団体平均値と比べて低く、今後も人口減少に伴う水道使用量の減少により、水道料金収入の減少が想定されます。その一方で、配水施設の改良工事、水道管の更新工事における建設改良費、維持管理経費及び企業債元利償還金等の費用負担が増大し、かつ、浄水施設の改修、耐震化問題など、課題が山積しているのが現状です。

過疎化に伴う給水人口の減少、節水意識の高揚により給水需要の減少が続く厳しい経営状況下において、料金回収率⑤は4年連続で平均値を下回りました。特に令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により水道料金の減免を実施し、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を収入源としているため、例年比べて落ち込みが突出しており、かつ、企業債残高対給水収益比率④も2倍程に膨れ上がっている。

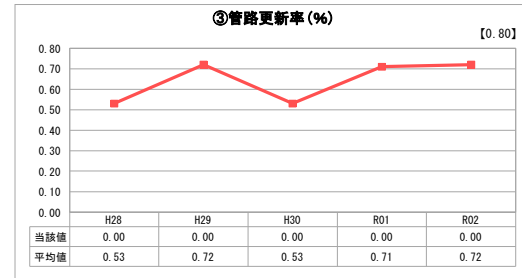
有収率⑧は類似団体平均値並みで、料金収入だけでは到底賄うことができないことから、一般会計からの繰入金により収支均衡を図っています。

財源確保のため、平成28年4月から水道使用料の改定を行いました。令和元年の消費税引上げ(8%→10%)に伴う改定は見送りました。今後、実施を予定している公営企業法への適用に伴い、料金改定の実施を検討します。

2. 老朽化の状況について

水道施設及び管路についても老朽化が進んでおり、段階的に更新を行っています。近年、機器等の突発的な故障による修繕も増えつつあります。今後も浄水施設、配水施設、管路等の更新、耐震化が必要となってきます。

2. 老朽化の状況



全体総括

社会・経済情勢の低迷の中、少子化の影響、節水型機器の普及等により、水道料金収入の減少が予想されます。一方で、水道施設の老朽化により、更新費用は増大する傾向にあります。

今後、水道を安定して供給を続けていくには、水道施設の省エネルギー化等による経費削減とともに、財源の確保が重要な課題です。